



2019年6月10日発行
 特定非営利活動法人
 盛岡YMCA
 〒020-0015
 盛岡市本町通 3-1-1
 Tel 019-623-1575
 Fax 019-623-1579
 www.moriokaymca.org
 発行人 / 濱塚 有史
 編集 / 本部事務局

YMCA News

6



「YMCAキャンプの魅力」

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



私の娘が「キャンプに行ってみたい!」と言ってきたのが1年生の秋。そこからYMCAのキャンプやアドベンチャー、サンスクールなどいろいろなイベントに参加するようになりました。

そんな楽しそうな姉を見ていた4歳になる双子の弟たちも、「僕たちも参加したい!」と言うようになりました。ダメもどで参加できるか聞いてみると、なんとOK!おむつがはずれたのも数か月前だし、親から離れて行動したこともなく、しかもちょっとやんちゃな二人。不安な気持ちはありましたが、思い切って参加させてみることに。

楽しみにしていた二人も当日集合場所に着くと急に不安になりぐずり始め、こちら心配になりましたが、そこは元気いっぱいリーダーがなんとかしてくれるだろうと乗り込んだバスを見送りました。しかしそんな不安もよそに、帰りにはニコニコ笑顔で一回り頼もしくなって帰ってきてくれました。

子どもにはいろんな経験をさせたいと思いながら、親というのはどうしても「失敗しないように」「上手くできるように」と先回りして教えようとしてしまいます。

YMCAは親とも先生とも違うちょっと年上のお兄さん、お姉さんと一緒に楽しんだり、苦労しながらいろんなことを学んでいきます。この経験が、いずれ子どもたちの生きる知恵や力になってくれると信じています。

今年のキャンプに行こうか悩んでいる人、一人では行くのが不安だなと思っている人、思い切って参加してみてください。若くて元気なリーダーがたくさん待っていてくれます。親ではかなえられない成長がきっとそこにはありますよ!

藤原 州子
 (ぶらいむ・たいむ向中野校メンバー保護者)



盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



4月28日(日)～29日(月)の2日間、国立岩手山青少年交流の家にて、リーダーキャンプ2019を行いました。今回のリーダーキャンプは岩手大学・岩手県立大学・盛岡大学・市内専門学校の新生63名に加え、在校生リーダー23名、スタッフ5名の計91名という、大人数のキャンプとなりました。これほどの大人数のキャンプはリーダーたちもほとんど初めてで、前日まで期待と不安でいっぱいでした。

「リーダーとキャンプの魅力を伝える」ことをテーマに、自分たちのやりたいことを追求し、ミーティングを重ね、キャンプ本番に挑みます。いざ当日、大きな原っぱでのプログラム、野外炊事、キャンプファイヤー、集合から解散まで笑顔で満ち溢れていました。

特に90名を超えるキャンプファイヤーは大迫力で、夜の寒さも感じないほど盛り上がりました。このキャンプ後、水泳と一緒に活動している1年生のリーダーから「リーダーキャンプ楽しかったです！また行きたいです！」の一言に胸が踊り、テーマを達成することができたと感じました。またそれと同時に、たくさんの人の「支え」によりキャンプは成功したのだと確信しました。

このキャンプは参加した全員で作上げたもので、一人でも欠けていたらテーマを達成できませんでした。1年生の数に負けないほど、在校生リーダーはパワフルで、これに感化された1年生も負けないくらい魅力的で、リーダー同士で共鳴している場面が多く見られました。

これから野外活動や通常活動、リーダートレーニングにサマーキャンプと、1年生リーダーが参加する機会がどんどん増えます。共にキャンプを作り上げた素敵な仲間たちとともに今後も盛岡YMCAを盛り上げていきたいです。

盛岡大学3年 小岩 壯太(いわぞんリーダー)



サマーキャンプ紹介～2019～

16 年間の公益を
すべての人に



4 夏の思い出作りを
みんなに



～わんぱくキャンプ～

今年のわんぱくキャンプは7月14日、15日の一泊二日。都南つどの森で行います！ つどの森は、自然がたくさん！広場もあるので、思う存分に遊べます！！また、自分たちでご飯を作ったり、料理をするための火をおこしたり、材料を包丁で切ったり、テントで寝たりと、たくさんの事にチャレンジできるキャンプです☆夏休み前、一足先に最高の夏の思い出をぜひ一緒に作りましょう！

わんぱくキャンプディレクター 小川 嘉文

～サッカーキャンプ～

私Gパンからはサッカーキャンプについて紹介させていただきます。2019年のサッカーキャンプは7月31日(水)～8月3日までの3泊4日で、八幡平市にある、いこいの村岩手 にて行われます。今年もサッカーキャンプは熱さMAXのキャンプとなっており、魅力なのは何と言っても、一度参加してしまったら忘れられないサッカーキャンプ最終日の「岩手山カップ」!!その年、その4日間でしか一緒になれないチームですが、毎年毎年いいチーム・いい仲間が出来上がっています。言葉では言い表しきれない楽しさがあるのが岩手山カップです!この素敵な時間をぜひ味わってみてください。

サッカーキャンプとは言っていますが、サッカーだけで終わらないのが2019年の盛岡YMCAサッカーキャンプ! 泊まるのは温泉完備、景色最高のホテルです。朝ご飯もバイキングとなっており、サッカーを思いっきり楽しむには十分すぎる環境!さらに、プールやバーベキュー、キャンプには欠かせないナイトプログラムなど楽しい要素もてんこ盛り!

この夏に体を思いっきり動かして、長いようであつという間に終わってしまう3泊4日をYMCAのサッカーキャンプで過ごしてみませんか。サッカーが好きな人も、ちょっと苦手な人も絶対に楽しめるキャンプになっていますので、たくさんのご参加お待ちしております!

サッカーキャンプディレクター 向平悟



～森の大自然満喫キャンプ

森の大自然満喫キャンプは、8月7日～8日にかけて、外山森林公園で行われます。森に囲まれたキャンプ場では、虫を捕まえたり、アスレチックで遊んだり、水鉄砲でびしょ濡れになったり、思う存分遊ぶことが出来ます。そして、夜には自分たちでご飯づくり! 普段の生活で当たり前にあることが、実は当たり前ではないことに気づくことが出来ます。

1泊2日という短いキャンプですが、その分ギュッと濃い2日間を過ごすことが出来ます。お泊りに不安のある子どもも保護者の方も、ぜひ最高の体験をしてみませんか。楽しい楽しい2日間を一緒に過ごしましょう!

森の大自然満喫キャンプディレクター 浅沼慧

～島のわくわくキャンプ～

サマーキャンプの中で、一番長い3泊4日を、そして一番遠い気仙沼大島の地で、テントに泊まり、海で遊び、磯で遊び、島を探検し、自分たちのご飯を自分たちで作る。時には出会った仲間と話し合い、喧嘩になったり、共感し合ったり...一緒に過ごす時間が長ければ長いほど、お互いを感じるものはたくさんあります。寂しかったり、楽しかったり、嬉しかったり、怒ったり...。いつもとは全く異なる環境の中で、新しい仲間から、新しい自分を発見していく子どもたち。キャンプの魅力も、夏の魅力もふんだんに詰まった4日間になること間違いなしです。

日には、8月9日(金)から12日(月・休)。宿泊先は休暇村気仙沼大島キャンプ場。一緒にキャンプを作る仲間を募集中です。ぜひ、たくさんのわくわくをキャンプでぶつけてください☆

～星空満天キャンプ～

盛岡からずっと山奥に入ったところにある休暇村岩手網張温泉キャンプ場。そこでは、いつもより近く見える星空や、たくさんの種類の木の実、また、耳を澄ませばキツツキの音や、うぐいすの鳴き声が聴こえてきます。川も流れ、橋を渡り、森の中を散策すれば、大自然を満喫することができます。

そんな場所で、8月4日(日)から6日(火)の3日間、子どもたちと大学生ボランティアリーダーでキャンプをしに行きます。

2泊3日は終わってみれば、少し物足りなさを感じるかもしれません。ですが、それもまたキャンプの醍醐味であり、キャンプ後に気づく新しい自分への発見があります。はじめは自分だけの世界だったものが、自分たちの世界に変わっていく。そんな体験が実感できるキャンプです。

島のわくわく・星空満天キャンプディレクター 武田 悠

4月野外活動 ～春だ!お花見町探検～



こんにちは!4月の野外活動のメインを務めましたピリケンです!昨年度までは低学年対象のこぐまクラス、高学年対象のカシオペアクラスと分かれていたアドベンチャーですが、今年度からはクラスを分けることなく幼児から高学年まで一緒に活動できる「ちきゅうと、あそぼう。野外活動クラブ」となりました!

そんな野外活動クラブの第一発目、「春だ!お花見町探検♪」には31人の子どもたち、20人の大学生リーダー、2人のスタッフが参加しました。盛岡駅から城跡公園までの道のりで、たくさん春を見つけよう!というプログラムをしました。

出発式で渡された盛岡YMCA植物図鑑を手に、子どもたちはいろいろな春を見つけました。ソメイヨシノと、エドヒガンを見分けたり、名前の分からない花と図鑑の花を見比べて「これはコブシの花だ!」と気づいたり...。グループごとに盛岡の町を自由に探検しながら、盛岡城跡公園を目指しました。

盛岡城跡公園は、丁度、桜が満開の時期でした。桜の下でグループごとにお弁当を食べました。「桜きれいだねえ〜」と良いながらご飯を食べる幼児の子が居たり、「俺、なぞなぞ出すよ!」と桜そっちのけで盛り上がる男の子が居たり...笑。それぞれの楽しみ方で昼食を楽しんでいました。



昼食後は、グループごとにピックじゃんけんをしてポイントを取り合うプログラムを行いました。午後のプログラムで1位になったグループは、花咲か博士として表彰されました!プログラムで1位になれなかったグループの子どもたちも、みんなそれぞれの春を見つけていて、4月の春らしい野外活動になったと思います。ありがとうございました!!

岩手大学4年 尾河芽生(ピリケンリーダー)



4月サンデースクール 「クロワッサンをつくろう!」

12 つくる責任 つかう責任



みなさんこんにちは!つよぼんです!

4月のサンデースクールはこども9名、リーダー10名で仁王地区活動センターにてクロワッサンづくりを行いました。

3つのグループに分かれ、クロワッサンづくりの開始。初めに、後で折りたたむ時に使うバターを薄く伸ばし、冷凍庫に入れます。めん棒を初めて使う子もいて、押して転がすのに少し手こずっていました。

次に、生地を作ります。薄力粉や砂糖などの材料をボウルに入れる子と、計りの目盛りを見る子に分かれながら、グループ内で協力して材料を計っていました。混ぜる時にも30秒ごとで交代と決めているグループもあり、グループみんなで数えながら生地作りをしていました。

そして、冷凍庫に入れていたバターを生地に折り込みます。伸ばしては折りたたみ、伸ばしては折りたたみを繰り返す中で、凍っていたバターが溶けてきて、どんどん作業が難しくなりました。それでもグループのクロワッサンを作るために、打ち粉をしったり交代したりしながら生地を完成させることが出来ました。

生地を三角に切り、くるくると巻くのですが、チョコレートが入ったものもお好みで作り、オーブンで約15分焼き上げました。

オーブンで焼いている間に使ったボウルなどの片付けや、お皿の準備などをして、グループで話しながら待っていました。

焼きあがったクロワッサンを見ると、ミニクロワッサンを沢山作っているグループもあれば、1人分の大きなクロワッサンを作っているグループもあり、グループの個性が感じられました。どのグループのクロワッサンもとても美味しそうに焼けており、子どもたちも少しも残さず食べていました。

グループごとの協力が見られそれぞれでとても美味しいクロワッサンが作れた楽しい活動となりました。

盛岡大学3年 千葉文彦(つよぼんリーダー)





昨年6月23日に開催された沖縄全戦没者追悼式で、当時中学3年生だった相良倫子さんが読んだ平和の詩を紹介します。

「生きる」

私は、生きている。/ マントルの熱を伝える大地を踏みしめ/心地よい湿気を孕(はら)んだ風を全身に受け、/草の匂いを鼻先に感じ、/遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。/私は今、生きている。私の生きるこの島は、/何と美しい島だろう。/青く輝く海、/岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、/山羊(やぎ)の嘶(いなな)き、/小川のせせらぎ、/畑に続く小道、/萌(も)え出し(い)づる山の緑、/優しい三線(さんしん)の響き、/照りつける太陽の光。/

私は何と美しい島に、/生まれ育ったのだろう。ありったけの私の感覚器で、感受性で/島を感じる。心がじわりと熱くなる。私はこの瞬間を生きている。/この瞬間の素晴らしさが/この瞬間の愛(いと)おしさが/今と言う安らぎとなり/私の中に広がりゆく。たまらなく込み上げるこの気持ちを / どう表現しよう。/大切な今よ/かけがえのない今よ。私の生きるこの今よ。

七十三年前、/私の愛する島が、死の島と化したあの日。/小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。/優しく響く三線は、爆撃の轟(とどろき)に消えた。/青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。/草の匂いは死臭で濁り、/光輝(ひかり)していた海の水面(みなも)は、/戦艦で埋め尽くされた。火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、/燃えつくされた民家、火薬の匂い。/着弾に揺れる大地、血に染まった海。/魍魎(ちみもうりょう)の如く(ごと)く、姿を変えた人々。/阿鼻叫喚(あびきょうかん)の壮絶な戦の記憶。

みんな生きていたのだ。/私と何も変わらない、/懸命に生きる命だったのだ。/彼らの人生を、それぞれの未来を、/疑うことなく、思い描いていたんだ。/家族がいて、仲間がいて、恋人がいて、/仕事があった。生きがいがあった。/日々の小さな幸せを喜んだ。手をとり合って生きてきた、私と同じ、人間だった。/それなのに、/壊されて、奪われた。/生きた時代が違う。ただ、それだけで。/無辜(むこ)の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。摩文仁(まぶに)の丘、眼下に広がる穏やかな海。/悲しくて忘れることのできない、この島の全て。/私は手を強く握り、誓う。/奪われた命に想(おも)いを馳(は)せて、/心から、誓う。

私が生きている限り、/こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。/もう二度と過去を未来にしないこと。/全ての人間が国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。/生きる事、命を大切にできることを、/誰からも侵されない世界を創ること。/平和を創造する努力を、厭(いと)わないことを。あなたも、感じるだろう。/この島の美しさを。/あなたも、知っているだろう。/この島の悲しみを。/そして、あなたも、/わたしと同じこの瞬間(とき)を、一緒に生きているのだ。今を一緒に、生きているのだ。

だから、きっとわかるはずなんだ。/戦争の無意味さを。本当の平和を。/頭じゃなくて、その心で。/戦力という愚かな力を持つことで、/得られる平和など、本当は無いこと。/平和とは、当たり前前に生きていること。/その命を精一杯輝かせて生きていることだということを。

私は、今を生きている。/みんなと一緒に。/そして、これからも生きていく。/一日一日を大切に。/平和を想って。平和を祈って。/なぜなら、未来は、/この瞬間の延長線上にあるからだ。/つまり、未来は今なんだ。

大好きな、私の島。/誇り高き、みんなの島。そしてこの島に生きるすべての命。/私と共に今を生きて、私の友。私の家族。

これからも共に生きてゆこう。/この青に囲まれた美しい故郷から。/真の平和を発信しよう。/一人一人が立ち上がって。/みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、/私の命が鳴っている。/過去と現在、未来の共鳴。/鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。/命よ響け。

生きてゆく未来に。/私は今を、生きていく。

平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。
(マタイによる福音書 5章9節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※ 互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。日本のYMCAはグローバルなネットワーク基盤を生かしてポジティブネットを広げ、希望ある豊かな社会を創ります



こんにちは!マックスです!今回は私がインドで考えたことを語ります。よろしくをお願いします!

真夜中、バンガロールに辿り着くとSCMの方々がお出迎えしてくれました。SCMとはStudent Christian Movementの略で人権問題やジェンダー問題について考え、活動している団体です。ここではSCMのユースホステルに滞在しました。そして、バスに乗ってインドの大都市バンガロールを移動。真夜中にも関わらず大音量のクラクションを鳴らしながら走る無秩序な車たち。高速道路の下にはゴミと土ぼこり、ウロウロする野犬。初海外の私にとっては、全てが衝撃の光景でした。SCMの部屋はなんだかホコリっぽい。お風呂はもちろん無く水シャワー。いくら気温が高いとは言え、ヒューヒューいながら水シャワーを浴びました。初めてのインドでの夜は日本が恵まれているということ、インドは貧困の状態にあるということを感じました。



次の日、地元の教授からインドの社会問題などについてレクチャーを受けました。インドのカースト制度、下位カーストや不可触民と言ったカーストにすら入れない身分が低い人々の人権ことなど、この時はまだ表面上の知識でしたが、このキャンプを通して、カースト制度というものを実感することになりました。

その後、バンガロールの街をぶらり。ずっとついてくる詐欺師のおじさんなど、たくさんの方がいる中、裸足でバラを売っている子どもたちに出会いました。ストリートチルドレンと呼ばれる路上で生活する子どもたちです。思わず涙が出そうでした。存在は知っていましたが、実際に見る子どもたちと、それを無視をする周りの人たちが衝撃的でした。この子どもたちに何もしてやれない自分が情けなくなりました。帰りのタクシーの中で、SCMの方がインドに貧困はないと言っていました。下位カーストの人々は“生まれ”であるためしょうがないとのこと。そして、その人たちはそのことを受け入れていると。インドは貧困だと思っていた私の考えは揺らぎ、インドの現実を来て早々知らされ、その日はモヤモヤしたまま眠りにつきました。

岩手大学4年 東彩由海(マックスリーダー)

感謝 年5月25日

2019年 敬称略

●維持会員

伊藤真太郎、伊藤愛美、晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、花田瞳、一戸貞文、嶋丹谷三千代、中島敬泰、家村知佳、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、増田隆、川坂保宏、伊藤信彦、大関靖二、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、高瀬裕彦、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、飯島隆輔、林辰也、魚住恵、今松桂子、熊谷大樹、森山日菜乃、森山幹大、光永尚生、北田仁則、北田アユ子、東森聡、人見晃弘、尾形裕一郎、山口貴伸、井上修三、井上優子、井上浩太郎、長岡正彦

●寄附金

晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、家村知佳、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、人見晃弘

現在

表紙の写真から

4月28日、29日と1泊2日の日程で、盛岡YMCAリーダー会主催の新入生歓迎キャンプが、国立岩手山青少年自然の家で開催されました。64名の新入生に2年生以上のリーダー、スタッフを加えると、90名を超す大キャンプでした。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>